

# チャイルド選手権

## (小学5年生・6年生)

[小学5年生・6年生の評価内容]

○正しい動き方と美しい身のこなし

○身体の左右均等の使い

○正しいフォームでの難度実施

「チャイルド選手権(小学5,6年生)開催の目的」

「ジュニア期に向けての基礎作り」が開催目的です。

※開催目的を十分に理解したうえで、ご参加下さい。

- 演技時間 1分～1分30秒
- 演技面 13m×13m
- 伴奏音楽について 2005年度版(財)日本体操協会新体操競技規則に基づく(スキヤット可)
- 演技 自由演技、「体操的なもの」に限定しなくても可能
- 採点方法(審判構成、点数配分、減点表について)※採点方法参照
- 難度表 2005年版イエローの表紙
- 表彰 1位から8位までを表彰します
- 演技の構成に要求されるもの

## 1、競技規則の主旨

- (1) 近年のチャイルド選手権において、「5・6年生の部」の技術力、表現力が格段に向上しています。
- (2) しかし、難度を正確に実施できているとは言い難く、また「つま先」や「膝」など四肢の美しさも十分であるとは言えません。そのうえ、「左右の不均等な動き」から生じたと思われる選手の「体のゆがみ」が多く見られることは憂えるべき問題です。
- (3) チャイルド選手が、将来大きな花を咲かせるための最重要課題は下記の3点です。
  - ① ジュニア期、シニア期につながる基礎づくりをすること
  - ② 正しいフォームを習得すること
  - ③ 少女期における成長障害をなくすこと
- (4) しかし、この時期でなければ身につけられない難度もあり、上記の点を総合的に鑑みた結果、チャイルド選手権(5・6年生の部)の規則を以下のように定めます(詳細は別紙)
  - ① ステップを主とした徒手要素により自由に振付をして下さい。
  - ② 難度を12個に制限する。(それを超える難度の使用は不可)
  - ③ 単独のみの難度とする。(ユニットは不可)
  - ④ 難度のレベルは基本的に自由。(ユニット、膝でのツール、膝でのピボットは禁止)
  - ⑤ 難度は左右均等に入れる。(左右ともまったく同じ価値の同じ難度を使用)
  - ⑥ ユニット、膝立ちのツール、膝でのピボットは禁止とします。それらが含まれていた場合、1要素につき、0.5の減点となります。
  - ⑦ 左右均等に入っていない場合も同じく、0.5の減点となります。

### 【難度を12個に制限し、そのすべてを単独にする理由】

国際ルールの変更によって、コンビネーションではなく、単独の難度の正確な実施が重要となりました。世界では不正確な難度は決して加算されません。四肢が美しくない選手も決して評価されません。よって、難度をより美しく、正確に実施して頂くために、難度を12個に制限します。

### 【難度のレベルをフリーにする理由】

すべての難度をA難度に制限し、それらを正確に行わせる手段もあります。しかしながらこの時期でなければ挑戦できない技、感覚で身につけなければ実施できない難度もあります。

よって個人の持つ能力に合わせ、その能力を最大限に活用して頂くために、難度の選択は基本的にはフリーとします。ただし、成長障害を阻止するためにユニットの難度は不可、膝でのツール、膝でのピボットも禁止します。

### 【左右均等にする理由】

試合に出場するための練習を重ねていくと、どうしても左右の筋力差などがでてきてしまい、結果的に成長障害や怪我などを誘発する原因ともなります。

よって腰や股関節のゆがみ、筋力差などを改善して怪我や故障を防ぐために、左右均等に難度を入れることとします。左右まったく同じ難度を入れることは作品としての面白みを欠くことにもなりますが、それよりも左右均等に体を鍛えることを重視しました。また左右のバランスがいいということは、難度の発展性にもつながることも考慮しました。

【ルール変更による影響】

このルールにより、D（難度）の価値点に大きな得点差が生じることが考えられます（すべての難度が認められた場合）。しかし、Dの技術レベルから生まれる差は、E（実施点）をこれまでの5点から10点にし、実施を厳しく審判するようにしたことでは補えるのではないかと考えています。

たとえばJ難度ができる選手でも左右同じようにできるとは考えにくく、片方が0点になる可能性もあります。それだけでなく、片側の不正確さは、実施点からも大きく減点されることになるでしょう。高いレベルの難度を入れても、実施の点数は非常に低くなる可能性があるわけです。反対にA難度を10個、B難度を2個しか入れられない選手でも、実施が満点に近づくように努力すれば、高得点が獲得できることとなります。また、「実施のみの最高得点者」に対しての表彰を導入し、実施の重要性を連盟として重要視することを明確に示唆いたします。

2、チャイルド選手権（5年生、6年生）規則

(1) 難度の数とレベル

個人演技には以下の難度が含まれなければならない。

身体要素	難度の種類と数	* 詳細	合計難度数
ジャンプ	1種類(左・右)+1種類=3個	*+1種類は自由 (左右差のある難度 or ない難度)	12個
バランス	1種類(左・右)=2個	*膝でのツールは禁止	
ピボット	2種類(左・右)=4個	*1種類は90度のもの(アチチュード、アラバスク、前、横) (2種類とも90度のものでも可) *膝でのピボットは禁止	
柔軟・波動	1種類(左・右)+1種類=3個	*+1種類は両腰で行うもの (両腰の難度は下記参照)	

注意

1. 難度のレベルは個々に応ずる。
2. 左・右と記しているものは左右同じ難度を行わなければならない。
3. 難度がひとつ不足することに0.5の減点となる。
4. バランスの難度はすべて2秒の静止が必要。
5. アクロバットの数の制限はしない。但し、シリーズでの使用を除いて同種のアクロバットの繰り返しは禁止する。
6. ユニットの難度はすべて禁止とする。
7. \*印の詳細については下記参照

ジャンプ詳細

○ジャンプは2種類を実施し、その内1種類は左右を行ってください。左右を続けて行う必要はなく、作品中に入っていればOKです。

○バリエーションを持たせるためにもう1種類行いますが、それは両方を行う必要はありません。

○25番のC難度のように両脚跳びで左右差のないものを使用してもかまいません。

○左右差のない難度とは以下の通り。

\* (25番のB、C、E。36番のB、C。37番のC、D。38番のC、E。39番のA)

バランス詳細

○「難度表12番のC難度」を選択した場合、左脚を後方に上げたバランスと、右脚を後方に上げたバランスを行うこととなります。左右を続けて行う必要はなく、作品中に入っていればOKです。

○バランスはかかとを上げた時点から2秒以上キープしてください。また手具を持つことを考え、できるだけ空いている手は動かすよう努力してください。

○31番から40番の膝でのツール(スローターン)はすべて禁止です。膝での禁止難度は以下の通り。

\* (31番C。30番C。31番D。33番C。34番C。35番D。36番C。37番D。38番C。39番D。40番F。41番D。42番F)

ルールブックの番号に誤りがあると思われるかもしれませんが、そのまま上から順番に31番、30番、31番としました。

### ピボット詳細

○1種類目の難度について「難度表9番のB難度」を選択した場合、右脚軸と左脚軸の両方のピボットを行うことになります。左右を続けて行う必要はなく、作品中に入っていればOKです。もう1種類は必ず、90度のピボットを入れてください。2種類とも90度のものでかまいません。90度のピボットとは以下の通り。

\* (4番のB、D、F。21番のB、D、F)

○膝でのピボットはすべて禁止です。膝での禁止難度は以下の通り。

\* (43番。44番。45番。46番。47番。48番。)

### 柔軟・波動詳細

○1種類目の難度について「難度表22番のB難度」を選択した場合、右脚軸と左脚軸の両方の柔軟を行うことになります。左右を続けて行う必要はなく、作品中に入っていればOKです。もう1種類は必ず、両腰で行うものを入れてください。両腰のものとは以下の通り。

\* (29番。30番。31番。32番。34番)

○3個とも両腰のものを入れることはできません。

### 3、得点配分について

得点	構成点(D+A)	技術的価値(D) ※最高点10.90	難度12個の加算点	(例) 一番低いレベルの難度を選択した場合 A難度×10個=1.00 B難度×2個=0.40
		芸術的価値(A.) ※最高点2.00	規定要素以外の構成要素 (1.8)	演技の統一性 身体全体の使用 ステップ 動きの多様性 さまざまな空間の使用 演技面全体の使用 動きと音楽の統一性
				独創性 (0.1)
			表現力 (0.1)	伴奏音楽にそった卓越した表現力 がある
	※最高点 10.00 実施点(E)	技術的評価	(9.9)	身体要素の技術 難度の正確さ フォームの正確さ 音楽と動き
		ボーナス加算点	熟練度 (0.1)	演技全体を通じて正確な技術をもって演じられ、卓越した大きさが感じられる

#### 4、減点表

##### (1) 構成の減点表

###### ① 技術的価値

減点	0.1点	0.2点	0.5点
難度の数			難度が1つない 左右が要求されているものに対し、どちらかの側がない ：足りない難度×0.5 *（構成上のミスによる）
禁止の難度			12個を超える難度、禁止の難度、アクロバットシリーズでの使用を除いて同種のアクロバットの繰り返しの使用 ：追加ごとに0.5

\* 必須の難度が足りない場合の0.5点の減点は、構成上のミス、あるいはまったく実施されなかったときによるもので、実施が少し不正確なために難度と見なされなかった場合では減点しません。

###### ② 芸術的価値

減点	0.1点	0.2点	0.3点
総則		構成に統一性がない	
身体要素の多様性	身体の部分的使用		
		ステップに多様性がない	
	動きに多様性がない		
	美的でない要素		
空間の多様性	方向の使用に多様性がない（前方、後方、側方、斜め方向）		
	空間レベルの使用に多様性がない（床上、低い位置、中間位置、高い位置）		
		演技面の部分的な使用	
音楽と動きの関係		不適切な騒音	セリフ入りの伴奏音楽
		音楽と演技の性格の調和が不十分	BGM となっている：0.5
		音楽のリズムと演技のリズムの不調和	
		演技終了時の荒々しい音楽の中断	
		長すぎるイントロ	

## (2) 実施の減点表

減点	0.1点	0.2点	0.3点
基礎技術 及び移動	演技中の姿勢がやや不正確 (膝、つま先などの姿勢欠 点) そのつど	演技中の姿勢が非常に不正 確 (膝、つま先などの姿勢 欠点) そのつど	
	演技中における余分な動き (無駄足等) そのつど		
ジャンプ	形の大きさにやや欠ける	形の大きさに欠ける	
	空中での形が明確でない		
	開脚度を要求されるもの において、開脚度がやや不足 している	開脚度が大きく不足してい る	
	ジャンプ中に肩があがる		
	膝やつま先がゆるんでいる (きちんと伸びていない、 あるいはきちんと曲がって いない)		
着地に柔軟性がない	着地でドンと重い音がする		
バランス	形が明確でない		
	身体の軸が曲がっている		
	軸足の膝、動足の膝、つま 先がゆるんでいる		
	軸足のかかとの位置が低 い、あるいは親指側のみ、 小指側のみ重心が乗る		
	股関節、膝、つま先の向き が一致していない (膝だけ 内向き、あるいはつま先だ け内向きになるなど)		
	開脚度の要求があるもの において、開脚度がやや不足 している	開脚度が大きく不足してい る	
余分な動き (移動せず)	余分な動き (移動あり)	バランスを失い、手をつく (転ぶ: 0.5点)	
ピボット	形が明確でない		
	回転の間にかかとをつく		
	回転の間にかかとの位置が 低い		
	軸足の膝、動足の膝、つま 先がゆるんでいる		
	余分な動き (移動せず)	余分な動き (移動あり)	バランスを失い、手をつく (転ぶ: 0.5点)
柔軟	形が明確でない		
	柔軟性がやや不足	柔軟性が大きく不足	
波動	膝やつま先がゆるんでいる (きちんと伸びていない、 あるいはきちんと曲がって いない)		
	形が明確でない		
音楽と動き	動きになめらかさが無い		
		音楽の中断: 中断の長さ により0.2~0.5	
	音楽のリズムと動きとがや やズれる (そのつど)	演技の終了時に音楽と動き が一致しない	

指定された期日までに、12個の難度を記載した申告用紙を提出して頂きます

<提出期日は後日お知らせします>

チャイルド選手権5、6年生の部・申告用紙

サンプル

記載日 年 月 日

選手名	所属名
-----	-----

	シンボルマーク	種類	価値点	審判		シンボルマーク	種類	価値点	審判
1					7				
2					8				
3					9				
4					10				
5					11				
6					12				
					コーチ (合計得点)				
コーチ署名					審判員 (合計得点)				
審判員署名					減点 (難度の不足、禁止難度の実施など)				
					審判員 (最終得点)				

※シンボルマークのところには難度のマークを記載してください。

※種類のところには、ジャンプ、バランス、ピボット、柔軟・波動のマークを記載してください。(例：T)

※価値点のところには、難度の価値点を記載してください。

※審判のところには、何も記載しないでください。